

8/10(月) 13:00

町公民館 2階 講堂

入場無料

みんなが豊かで幸せなまちへ

てしかが創生委員会・地方創生セミナー

てしかが まち・ひと・しごと 創生

「人口減少の克服」「地方創生」という大きな課題に一丸となって取り組むため、国は「まち・ひと・しごと創生本部」を立ち上げました。各地方公共団体は、今年度中に地方創生に向けた5年間の地方版総合戦略を策定することになっています。地方創生の取り組みを進めていくためには、地域の皆さんが地方創生を自分のこととしてとらえ、共感し、協力していくことが必要です。

町では「てしかがまち・ひと・しごと創生戦略策定推進本部(本部長/徳永町長)」を中心に、弟子屈版総合戦略策定を進めます。今後は、各分野の第一線で活躍する外部有識者の方や町民の皆さん、町内各界の関係者で構成する「てしかが創生委員会」も立ち上げ、意見交換を重ね、オール弟子屈の総合戦略づくりを進めていきます。

この度、第1回目の委員会とともに「地方創生セミナー」を開催し、総合戦略やまち・ひと・しごと創生法への理解を深めます。そして、人口減少と地域経済縮小という悪循環を回避し、若い世代が結婚・出産・子育ての希望をかなえることができ、皆さんが豊かで幸せなまちになるための戦略と地方創生への道筋を考えます。

委員会とセミナーを皆さんに公開します。多くの皆さんの参加をお待ちしています。

第1部 13:00~【第1回てしかが創生委員会】 第2部 18:00~20:00【地方創生セミナー】

▶地方創生の概要

- ①地方創生のこれまでの経緯
- ②本町の策定推進体制について
- ③策定スケジュールについて

▶本町の人口動態と町民アンケート分析結果について

▶講話「てしかがまち・ひと・しごと創生に期待されること」

講師/藻谷 浩介氏

▶意見交換(14:30~15:00)

てしかが創生委員会外部有識者の皆さんなどによるトークセッション

▶テーマ「私が考える地方創生と弟子屈での取り組み」

- 原 俊彦氏・藻谷 浩介氏(以上てしかが創生委員会外部有識者)・徳永町長・創生委員の皆さんなどによるショートプレゼンテーション
- 上記の皆さんによるトークセッション
ファシリテーター/山田 桂一郎氏(てしかが創生委員会外部有識者)

原 俊彦(はら としひこ)氏



日本人口学会会長(札幌市立大学デザイン学部教授)
1975年早稲田大学政治経済学部政治学科卒業。1977~1982年フライブルグ大学(ドイツ)哲学部第四類に留学、社会学・政治学・経済政策専攻、社会学博士取得。帰国後、勸業エネルギー総合工学研究所(主任研究員)を経て、勸業研究開発コーディネーター設立(代表取締役)。1988年北海道東海大学国際文化学部助教授、1995年同教授、2006年から現職。

藻谷 浩介(もたに こうすけ)氏



株式会社日本総合研究所 主任研究員・株式会社日本政策投資銀行 地域企画部 特任顧問・NPO法人地域経営支援ネットワーク理事長
1964年山口県生まれ。東京大学法学部卒業。著書「デフレの正体」は50万部を超えるベストセラー。「里山資本主義日本経済は安心の原理で動く」で新書大賞'14を受賞。他の著書に「金融緩和の罠」「しなやかな日本列島のつくり方」。地域エコノミスト。

山田 桂一郎(やまだ けいいちろう)氏



JTIC SWISS(スイスの日本語インフォメーションセンター)代表
1965年三重県生まれ。弟子屈町まちづくりアドバイザー、南弟子屈地域活性化協議会アドバイザー、総務省地域力創造のための外部専門家、内閣府・国土交通省・農林水産省認定観光カリスマ、NPO法人日本エコツーリズム協会理事、和歌山大学客員教授、北海道大学客員准教授。スイス・ツェルマット在住。

問い合わせ先/役場まちづくり政策課政策調整係 ☎ 4 8 2 - 2 9 1 3 (課直通)

釧路川の調査(空撮)に伴い町道通行規制

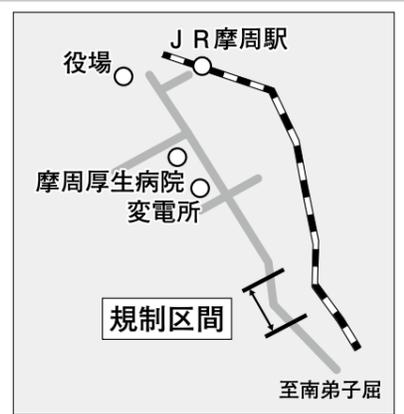
釧路川の調査に伴い、右図のとおり町道釧路川右岸沿線を一時通行止めとしますので、ご理解とご協力をお願いします。釧路川の調査方法が「空撮」であることから、安全確保のため隣接する町道の通行規制を行うものです。

▶規制期間・時間/規制時期は8月中です。詳細な日時が未定のため決定次第、規制看板を設置しますので、ご確認をお願いします。規制時間は1~3時間程度です。

▶看板設置位置/No.1 看板・旧伏見歯科横 No.2 看板・泉地区住宅街の外れ
No.3 看板・南弟子屈橋付近T字交差点

□問い合わせ先

- 一般財団法人北海道河川財団 ☎ 0 1 1 - 7 2 9 - 8 1 4 1
- 株ドーコン ☎ 0 1 1 - 8 0 1 - 1 5 7 0
- 役場建設課 ☎ 4 8 2 - 2 9 4 1 (課直通)



注意!

ヒグマ目撃情報が 相次いでいます!

例年になく多い目撃情報

5月下旬以降、町内でのヒグマの目撃情報が頻発しています。

役場に寄せられた個体目撃・農業被害・足跡やフンの目撃などの件数を合計すると74件(7月23日現在)。前年同期が11件、2014年度全体でも24件だったことを考えると、かなり多いことが分かります。

今年の特徴

目撃情報全体の半分以上を占めるのが、国道391号のうち川湯駅前地区南側の道道の交差点付近から美留和处理場へ向かう町道との交差点付近の間、約3キロ区間での出没です。後日通報も含めると同じ日に5回の目撃情報が寄せられる事案や、住宅密集地への出没事案(屈斜路コタンの住宅地に3回、川湯市街に2回)も発生しています。

ヒグマは本来、山の中で生活するはずの動物です。人間が生活する地域にこれだけ出没するようになったという記録は、町内ではこれまで確認されていません。関係機関が一丸となって最大限の努力を日夜続けていますが、出没などの目撃回数は日を追うごとに増加しています。

あなたにできること

人間がヒグマと接触することを防ぐために、皆さんができることがたくさんあります。

▶ごみ処理の工夫

- 燃やせるごみは、決められた日(収集日)の朝までは家の中で保管する。(収集日以前に出すと、夜間や早朝のヒグマの出没につながってしまいます)
- 生ごみの臭いが漏れないように、ごみ袋の上部はしっかり縛る。
- ごみ箱のふたは、しっかり閉める。
- ヒグマ出没地域周辺でのコンポストの使用は控える。

▶山林へなるべく入らない

- やむをえず入林するときは、家族などに行き先・帰宅時刻を伝える。
- 単独行動はしない。
- 鈴やラジオなど音の出るものや、ヒグマ撃退用スプレーを携帯する。

▶ポイ捨ては絶対に「しない」「させない」

●ジュースなどの空き容器やお弁当の食べ残しなどは、ヒグマをはじめとする野生動物にとって格好のごちそうです。ヒグマを誘う原因となるものを置くと、ヒグマを人間の領域に近づけてしまいます。ポイ捨ては絶対にやめましょう。

▶ヒグマに餌を与えない

●観光客が町内でヒグマに餌をあげようとした場面を目撃した方がいます。危険極まりない行為ですので、ぜったいにしないでください。

万が一、ヒグマを見てしまった場合は、速やかに弟子屈警察署(☎ 4 8 2 - 2 1 1 0)か役場農林課へ通報してください。通報は自分自身の身を守るということだけではなく、情報を地域の皆さんや関係機関と共有することで、地域の皆さんをヒグマから守ることにつながります。

問い合わせ先/役場農林課林務係 ☎ 4 8 2 - 2 9 3 6 (課直通)